

この図鑑の見方

この図鑑では、江の島の海岸の浅瀬で見られる生き物のうち、魚を除く主な動物（無脊椎動物）を紹介しています。無脊椎動物とは、背骨（脊椎）をもたない動物のことです。

①大きなグループの名前

この図鑑では、海岸動物を5つの大きなグループに分けて紹介しています。

1. イソギンチャクのなかま（刺胞動物）
2. 貝のなかま（軟体動物）
3. エビ・カニのなかま（節足動物）
4. ヒトデ・ウニ・ナマコ（棘皮動物）
5. その他のなかま（海綿動物、扁形動物など）

④種名（和名）

遺伝子や姿形がよく似た生物をまとめた、国内共通の名前です。

⑤種の解説

その動物種を見分けるときに参考になるポイントや、生態（暮らし方）の特徴が書いてあります。

②大見出し

大きなグループの中が、さらにいくつかのグループに分かれる場合には、小さい方のグループ名がここに書かれます。

③大きなグループの正式な名前

①のグループ名には、分類学上の正式な名前が別にあります。少し難しい名前なので、ここに小さくのせてあります。

⑦潮間帯の図

⑧のデータ欄に書かれている「上中下」の説明です。

- 上：潮間帯の上部、中：潮間帯の中部、下：潮間帯の下部、下：タイドプール
- を表します。タイドプール（潮だまり）とは、潮が引いても岩場のくぼみに海水が残る場所のことです。

⑧データ欄

その動物種の体の大きさ、生息環境などのデータです。

大きさ 足盤径 3cm 環境 南/上中/岩の側面や下面 ☆☆

体の大きさ

体長、全長、甲の長さなど、種によって測り方がちがいます（海岸動物の体の見方→p.10-13）。

生息環境

江の島の中での、その種が見られる場所と環境の情報です。

- 「西・東・南」……江の島のどのエリアかを示します（江の島の地図→p.4-5）。
- 「上中下」……潮間帯における位置です。右ページの「潮間帯」の図に説明があります。
- 「岩場」「砂れき」など……その動物のいる、周りの環境を示しています。

イソギンチャクのなかま

イソギンチャクのなかま①

刺胞動物

刺胞という毒針のカプセルをもち、獲物をつかまえて、身を守ったりします。サンゴやクラゲもこのなかまにふくまれます。



ハネウミヒドラ
(ハネウミヒドラ科)
大きさ 群体の高さ 20cm 環境 南/上中/岩や石の上 ☆



イソバナビ
(イソバナ科)
大きさ 群体の高さ 5cm 環境 南/上中/岩や石の上 ☆



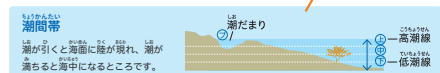
ヨロイイソギンチャク
(ウメボシイソギンチャク科)
大きさ 足盤径 4cm 環境 西・南/上中/岩のすき間 ☆☆☆



ミドリイソギンチャク
(ウメボシイソギンチャク科)
大きさ 足盤径 4cm 環境 西・南/上中/岩のすき間 ☆☆☆

⑥動物の写真

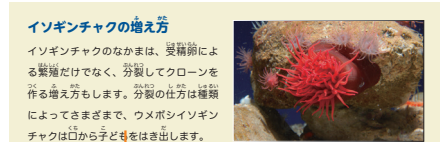
多くの写真は、実際にその動物が見られる場所で撮られています。小さくて顕微鏡で見えるような動物、自然下では体の形が見えにくい動物などは、白や黒の背景で撮影されていることもあります。



ヒメイソギンチャク
(ウメボシイソギンチャク科)
大きさ 足盤径 1cm 環境 西・南/上中/岩のすき間や石の下 ☆



ウメボシイソギンチャク
(ウメボシイソギンチャク科)
大きさ 足盤径 3cm 環境 南/上中/岩の側面や下面 ☆☆



⑨ひとことコラム

江の島の海岸動物に関する、さまざまな豆知識を紹介します。このほか、江の島の海岸動物を調査観察しながら知ったこと、考えたことなどをつづった1ページ大のコラムもあります（p.19, p.39 など）。

見つけやすさ

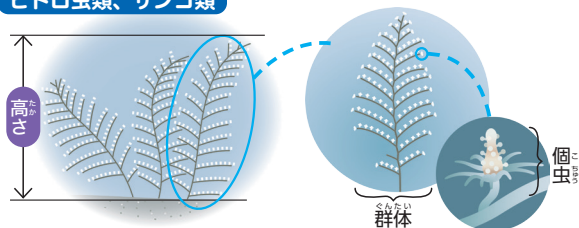
江の島での見つけやすさです。☆が多いほど見つけやすい種で、赤い★は、江の島ではめったに見られないめづらしい種です。

かいがんだうぶつ からだ み かた 海岸動物の体の見方①

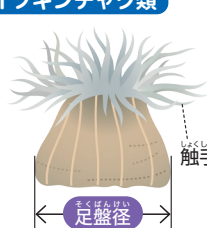
かいがんだうぶつ からだ おお ぶんるい はか かた
 海岸動物の体の大きさは、なかま（分類）によって測り方がちがいます。
 この図鑑に出てくる動物の、体の測り方を紹介します。

イソギンチャクのなかま (しほうどうぶつ) (刺胞動物)

ヒドロ虫類、サンゴ類

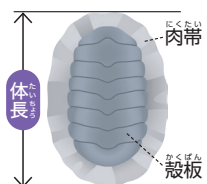


イソギンチャク類

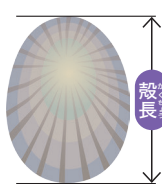


かい 貝のなかま (なんたいどうぶつ) (軟体動物)

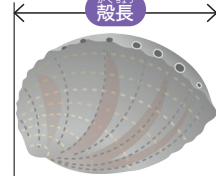
ヒザラガイ類



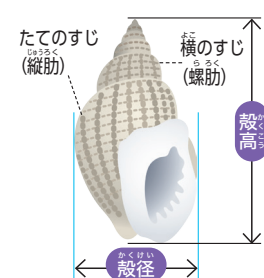
カサガイ類



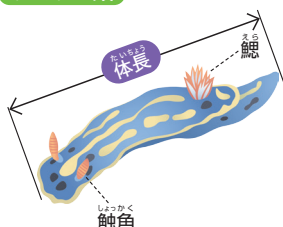
アワビ類



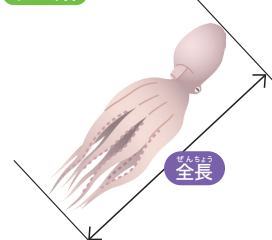
まきがかい まきがいのり 巻貝らしい巻貝類



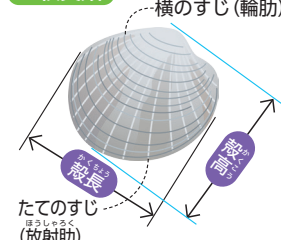
ウミウシ類



タコ類

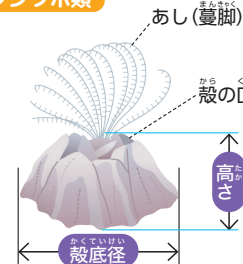


にまきがいのり 二枚貝類



エビ・カニのなかま (せつそくどうぶつ) (節足動物)

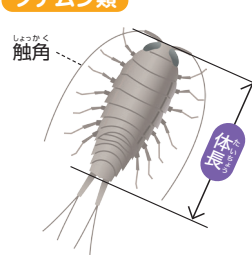
フジツボ類



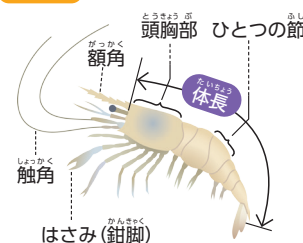
ヨコエビ類



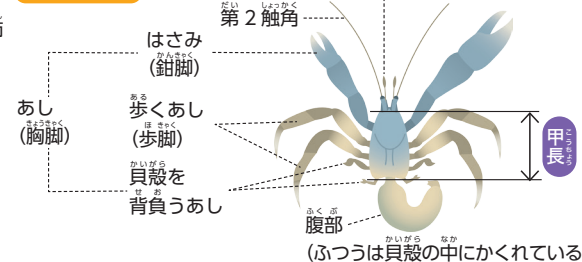
フナムシ類



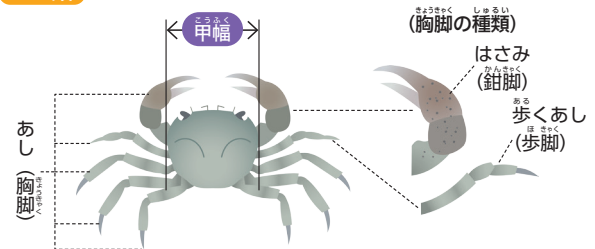
エビ類



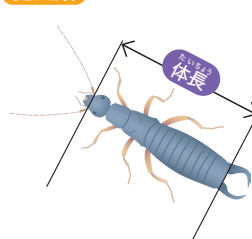
ヤドカリ類



カニ類

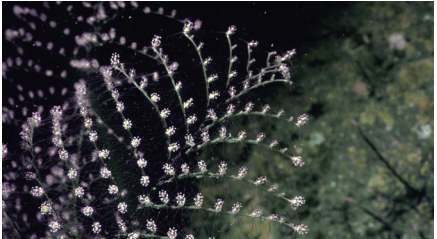


こんちゅうるい 昆虫類



イソギンチャクのなかま① し ほうどうぶつ 刺胞動物

し ほう どうぶつ 刺胞動物
し ほう 刺胞という毒針のカプセルをもち、獲物をつかまえたり、身を守ったりします。サンゴやクラゲもこのなかまにふくまれます。



ハネウミヒドラ
〈ハネウミヒドラ科〉
おお ぐんたい たか かんきょう 南/⑦/岩や石の上 ☆
とほね み ぐんたい い もの
鳥の羽根のように見える群体の生き物です。岩や浮桟橋などに付着します。



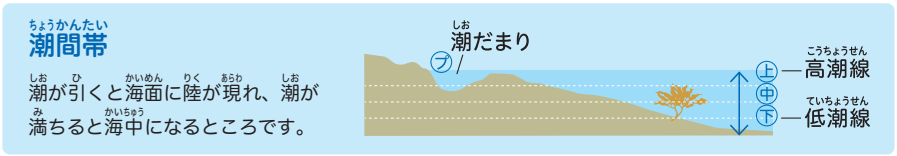
イソハナビ
〈イソバナ科〉
おお ぐんたい たか かんきょう 南/⑦/岩や石の上 ☆
じく ささ えだ わ
軸に支えられた枝はいくつもに分かれます。枝は朱色で、黄色や白色の個虫がつきます。



ヨロイイソギンチャク
〈ウメボシイソギンチャク科〉
おお 足盤径 4cm かんきょう 西・東・南/①④⑦⑩/岩のすき間 ☆☆☆
あわい 緑色から褐色で、体の周りに小石や貝殻をくっつけ、縮むと岩場にまぎれます。



ミドリイソギンチャク
〈ウメボシイソギンチャク科〉
おお 足盤径 4cm かんきょう 西・東・南/①④⑦⑩/岩の割れ目、砂地 ☆☆☆
あわい 緑色や桃色など色彩変異があります。砂のたまった岩のくぼみや割れ目で見られます。



ヒメイソギンチャク
〈ウメボシイソギンチャク科〉
おお 足盤径 1cm かんきょう 西・南/①④⑦⑩/岩の下面や石の下 ☆
しょうしゅ かっしよく からだ なら かっしよく
触手はあわい褐色で、体にはたてに並ぶ褐色の斑と、根元に黄色のたてすじがあります。



ウメボシイソギンチャク
〈ウメボシイソギンチャク科〉
おお 足盤径 3cm かんきょう 南/①④⑦⑩/岩の側面や下面 ☆☆
あかい いろ こ いわ み ちやく
赤色から濃いえんじ色で、岩などに付着します。体を縮めた姿が梅干しのように見えます。

イソギンチャクの増え方

イソギンチャクのなかまは、受精卵による繁殖だけでなく、分裂してクローンを作る増え方もします。分裂の仕方は種類によってさまざまで、ウメボシイソギンチャクは口から子どもをはき出します。

イソギンチャクのなかま②

しほうどうぶつ
刺胞動物



ミナミウメボシイソギンチャク
〈ウメボシイソギンチャク科〉

おお 足盤径 3cm 環境 南/④⑤/岩のすき間
☆ ☆ ☆
褐色からオレンジ色です。触手を閉じる筋肉が弱いため、すばまず開いたままです。



タテジマイソギンチャク
〈タテジマイソギンチャク科〉

おお 足盤径 1cm 環境 西・東・南/④⑤⑥⑦
/岩のすき間 ☆ ☆ ☆
濃い褐色から緑色の体の周りに、オレンジ色のたてじまがあります。

ヤドカリと共に暮らす

ベニヒモイソギンチャクと共生するソメンヤドカリは、イソギンチャクの刺胞の毒で身を守っています。



ベニヒモイソギンチャク
〈クビカザリイソギンチャク科〉

おお 足盤径 3cm 環境 南/⑦/ヤドカリが背負う貝殻の上 ☆
ソメンヤドカリなどが背負う貝殻に付着します。体に穴の列があり、細い槍糸が出ます。

Column

この図鑑にのらない江の島の生き物たち

北嶋 円 (新江ノ島水族館)

海の中や陸上に目を向けると…

江の島の海岸には、この図鑑にのせていないみりよく的な生き物たちがまだまだたくさんいます。魚についてはひとこコラムで紹介しますが、魚以外でみなさんも気になると思われる生き物をいくつか紹介します。

1) クラゲのなかま

目をこらしてタイドプールをよく見ると、ベニクラゲやオトヒメクラゲなどの透明で小さなクラゲが泳いでいることがあります。また、私たちがよく知るクラゲの形になる前の、ポリプとよばれるイソギンチャクのような姿で、岩や貝殻についていることがあります。



水面の黄色っぽい部分は、大量発生したギヤマンクラゲ

2) 鳥のなかま

南の岩場では、望遠レンズのついたカメラを持っている人を見かけます。岩場に暮らすハヤブサを撮影する人たちです。また、青とオレンジ色のイソヒヨドリを姿をたびたび見ることができます。オスのイソヒヨドリは美しい声で鳴くので、いれはすぐに気づくことができます。

3) カエルのなかま

北西岸の砂浜には、ヌマガエルがいます。本来、西日本の水田などでよく見かけるカエルですが、なぜか江の島では海岸に現れます。昼間はしめった草の下にかくれていることが多いです。内陸にはアマガエルやウシガエルもいます。



砂浜近くの草の下にかくれていたヌマガエル。国内移入種です。

参考文献

書籍

『新 写真でわかる磯の生き物図鑑』 今原幸光（編著） 2023 海文堂出版株式会社
『小学館の図鑑 NEO POKET 海辺の生物』 白山義久ほか 2011 株式会社小学館
『日本近海産貝類図鑑』【第二版】 奥谷喬司（編著） 2017 東海大学出版部
『写真でわかる磯の生き物図鑑』 今原幸光（編著） 2013 トンボ出版
『海洋生物ガイドブック』 益田一 1999 東海大学出版
『小学館の図鑑 NEO 新版 水の生物』 白山義久ほか 2019 株式会社小学館
『ナマコガイドブック』 本川 達雄、今岡 亨、楚山いさむ 2003 株式会社阪急コミュニケーションズ
『ヨコエビガイドブック』2 版 有山啓之 2023 海文堂出版株式会社
『環形動物多毛類』 第 2 版 今島実 2004 株式会社生物研究社
『干潟ベントスフィールド図鑑』 鈴木孝男、木村昭一、木村妙子、森敬介、多留聖典 2013 特定非営利活動法人日本国際湿地保全連合

論文

江の島の潮間帯動物相 植田育男・萩原清司 1988 神奈川自然誌資料, (9) : 23-29
江の島の潮間帯動物相 II 萩原清司・植田育男 1993 神奈川自然誌資料, (14) : 53-58
江の島の潮間帯動物相 III 植田育男・萩原清司・崎山直夫 1998 神奈川自然誌資料, (19) : 31-38.
江の島の潮間帯動物相 IV 植田育男・萩原清司・崎山直夫・足立 文 2003 神奈川自然誌資料, (24) : 25-32
江の島の潮間帯動物相 V 植田育男・萩原清司・櫻井 徹 2008 神奈川自然誌資料, (29) : 163-169.
江の島の潮間帯動物相 VI 植田育男・萩原清司・伊藤寿茂・北嶋 円・村石健一 2013 神奈川自然誌資料, (34) : 25-32
江の島の潮間帯動物相VII 伊藤寿茂・植田育男・萩原清司・北嶋 円・岩崎猛朗・村石健一・崎山直夫 2018 神奈川自然誌資料, (39) : 13-21
江の島の潮間帯動物相 VIII 西川湧馬・植田育男・萩原清司・崎山直夫・伊藤寿茂・北嶋 円・加登岡大希・藤田温真 2023 神奈川自然誌資料, (44) : 89-100.
江の島潮間帯のフジツボ相 植田育男・萩原清司 1990 神奈川自然誌資料, (11) : 125-129.

ウェブサイト

BISMaL- ビスマル - 国立研究開発法人海洋研究開発機構
<https://www.godac.jamstec.go.jp/bismal/j/>

謝辞

本書のきっかけである「江の島の潮間帯動物相調査」は 1987 年、当時江の島水族館に勤務していた植田育男氏と萩原清司氏が始めたもので、当館が江の島を継続調査する礎となっております。調査にあたり、江の島片瀬漁業協同組合や湘南海上保安署、江の島ヨットハーバー、島民のみなさまにご協力をいただきました。池田等先生、大谷道夫先生、西栄二郎先生には専門的な目線よりご校閲をいただきました。地形の変化については平塚市博物館の野崎篤氏に助言をいただきました。また、河津結実氏、宮村美帆氏、尾和みゆき氏のお陰で本の形になったと言っても過言ではありません。本書は海の学びミュージアムサポートの助成金を活用し制作いたしました。関わってくださった多くの方々に深く御礼申し上げます。

北嶋 円

執筆協力・制作

校閲

池田 等（相模湾海洋生物研究会）
大谷道夫（大阪市立自然史博物館）
西 栄二郎（横浜国立大学）
なぎさの体験学習館
小学館クリエイティブ

画像協力

池田 等（相模湾海洋生物研究会）
なぎさの体験学習館
藤沢市藤澤浮世絵館

イラスト

倉本ヒデキ（p.10-15、p.112-114、p.117）
新江ノ島水族館 デザインチーム

デザイン

櫻元久幸（新江ノ島水族館）
ニシエ芸株式会社

編集

新江ノ島水族館
尾和みゆき・河津結実（小学館クリエイティブ）
宮村美帆

DTP

ニシエ芸株式会社

印刷

柴坂徹也（TOPPAN クロレ株式会社）

特別協力

船の科学館「海の学び ミュージアムサポート」



執筆・撮影 (五十音順)

足立 文 (新江ノ島水族館)

伊藤寿茂 (相模川ふれあい科学館・アクアリウムさがみはら)

植田育男 (神奈川大学)

北嶋 円 (新江ノ島水族館)

崎山直夫 (新江ノ島水族館)

鈴木良博 (新江ノ島水族館)

萩原清司 (横須賀市自然・人文博物館)

西川湧馬 (新江ノ島水族館)

えのすい^{うみ}海のすかん

え^{しま}江の島むせき^{かいがん}ついで^{ずかん}海岸どうぶつ図鑑

2025 年 2 月 10 日 初版第 1 刷発行

編著・発行 株式会社新江ノ島水族館
〒251-0035
神奈川県藤沢市片瀬海岸 2-19-1
電話 0466-29-9960
URL <https://www.enosui.com/>

印刷・製本 TOPPANクロレ株式会社

©2025 Enoshima Aquarium
ISBN 978-4-9907871-1-0

Printed in Japan

本書の一部または全部を無断で複製、転載、複写（コピー）、スキャン、デジタル化、放送等の二次使用をすることは、著作権法上での例外を除き禁じられています。代行業者等の第三者による本書の電子的複製も認められておりません。

第一種動物取扱業に関する表示 事業所の名称：新江ノ島水族館 事業所の所在地：神奈川県藤沢市片瀬海岸 2-19-1 登録に係る第一種動物取扱業の種別：展示 動愛第 210512 号 登録年月日：2007 年 5 月 10 日 登録の有効期間の末日：2027 年 5 月 9 日 販売 動愛第 210513 号 保管 動愛第 210514 号 貸出し 動愛第 210515 号 登録年月日：2017 年 4 月 14 日 登録の有効期間の末日：2027 年 4 月 13 日 動物取扱責任者：白形知佳・崎山直夫